

週報

感染性胃腸炎(腸管病原菌)検出

センター受託検査分より

検出菌 ウイルス	平成29年												平成30年												
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月 ~7日	1月 ~14日	1月 ~21日	1月 ~28日	2月 ~4日	2月 ~11日	2月 ~18日	2月 ~25日	3月 ~4日	3月 ~11日	3月 ~18日	3月 ~25日	4月 ~1日
カンピロバクター	61	68	80	122	83	118	142	87	98	161	109	84	7	8	10	12	11	10	5	13	11	14	12	10 (11)	18
病原性大腸菌	107	105	89	113	64	135	206	161	102	112	73	110	14	17	14	21	15	16	6	14	10	13	19	2	16
腸管出血性大腸菌	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0
サルモネラ	0	1	7	11	10	13	18	29	9	12	16	3	0	0	2	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0
黄色ブドウ球菌 MSSA	6	11	12	15	9	21	32	17	24	24	9	12	2	3	2	7	3	3	2	3	2	2	2	1	5
黄色ブドウ球菌 MRSA	16	19	13	17	15	23	27	16	22	19	15	16	3	1	3	5	4	3	1	3	6	3	2	2	2
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	2	1	3	0	5	9	11	5	14	3	1	0	0	0	0	2	1	3	1	3	1	0	1	0
ロタウイルス	1	0	1	6	6	3	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	2	1	1	7	4	4	5	5	6
アデノウイルス	0	0	0	0	1	0	0	2	0	1	1	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
ノロウイルス	7	4	8	6	11	13	8	2	1	3	7	21	2	4	2	5	4	2	3	4	10	5	2	0	1

* () は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

広島県感染症発生動向週報

平成30年第13週(3月26日~4月1日)

2 一類-二類-三類-四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市	
一類	0	発生なし	0								
二類	16	結核	16	1		5		9		1	
三類	0	発生なし	0								
四類	1	レジオネラ症	1							1	
五類全数	9	アメーバ赤痢	2	1				1			
		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3			1	1		1		
		侵襲性肺炎球菌感染症	1								1
		梅毒	2				1	1			
		百日咳	1								1

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市 西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町 北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

広島県感染症情報センター 提供

定点・全数把握疾患週報【広島市】(第13週 3/26~4/1)

広島市感染症対策協議会/広島市感染症情報センター 提供

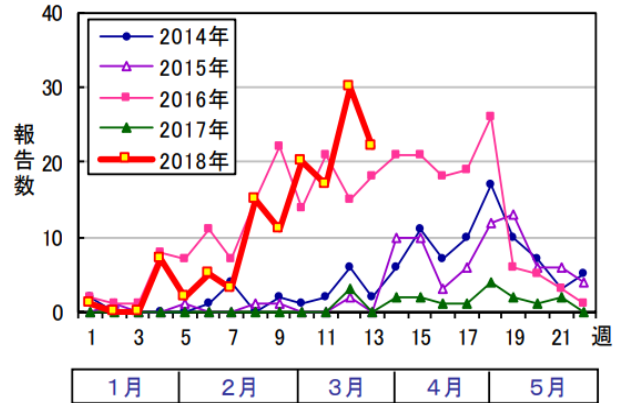
1. 感染性胃腸炎(ロタウイルス)

感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)は基幹定点から22人の報告があり、多い状況が続いています。また、市内の基幹病院2か所による迅速診断結果では、第13週は24人報告されています。

ロタウイルスは、乳幼児に急性胃腸炎を引き起こす主要な原因で、2~4日の潜伏期間の後、下痢・嘔吐・発熱などの症状が出現し、ノロウイルスに比べると症状が少し重い傾向にあるといわれています。

例年、3月から5月頃にかけて報告数が多くなる傾向にありますので、保育園などの集団生活の場では、特に注意が必要です。オムツや吐物の適切な処理、手洗いを徹底するなど、感染予防対策を心がけましょう。

基幹定点からの感染性胃腸炎(ロタウイルス)報告数



■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号
小児科	インフルエンザ	95	2.57	5.41	急増	小児科	流行性耳下腺炎	2	0.08	0.74	横ばい
	咽頭結膜熱	4	0.17	0.31	横ばい	小児科	RSウイルス感染症	12	0.50	0.13	横ばい
小児科	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	48	2.00	1.93	横ばい	眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-	横ばい
	感染性胃腸炎	202	8.42	8.06	急増	眼科	流行性角結膜炎	4	0.50	0.40	横ばい
	水痘	5	0.21	0.58	横ばい	基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	横ばい
	手足口病	2	0.08	0.25	横ばい		無菌性髄膜炎	-	-	-	横ばい
	伝染性紅斑	-	-	0.16	横ばい		マイコプラズマ肺炎	-	-	0.03	横ばい
	突発性発しん	6	0.25	0.29	横ばい		クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	横ばい
	ヘルパンギーナ	4	0.17	0.02	横ばい		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	22	3.67	-	急増

急増減	↑	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↔	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	→	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	6

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■ 全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	9	42	女性(20歳代)・1人、男性(30歳代)・推定感染地域: 国外・1人、女性(30歳代)・1人、女性(30歳代)・推定感染地域: 国外・1人、女性(50歳代)・1人、男性(60歳代)・1人、男性(70歳代)・1人、女性(80歳代)・1人、男性(90歳代)・1人
5	アメーバ赤痢	1	3	男性(40歳代)
5	梅毒	1	26	男性(30歳代)

■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
インフルエンザ	発熱(39.3) 鼻炎	4	男	2018/02/20	鼻汁	インフルエンザウイルスA(H3)型 ライノウイルス
感染性胃腸炎	嘔吐 下痢	1	男	2018/02/12	糞便	ノロウイルスG2
ヘルパンギーナ	発熱(39.4) 鼻炎	1	男	2018/02/20	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA2型
流行性角結膜炎	結膜炎 結膜浮腫 偽膜形成	79	女	2018/01/26	結膜擦過物	アデノウイルス85型
流行性角結膜炎	結膜炎 結膜充血 眼瞼腫脹	84	男	2018/01/29	結膜擦過物	アデノウイルス85型
流行性角結膜炎	結膜炎 結膜充血 眼脂 眼痛	13	男	2018/02/15	結膜擦過物	アデノウイルス85型
その他の消化器疾患	嘔き気 下痢	1	女	2018/02/20	糞便	ノロウイルスG2
その他の消化器疾患	胃腸炎 腹痛	2	女	2018/02/23	糞便	アデノウイルス1型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載